



# 棚田ライタス

全国棚田(千枚田)連絡協議会

第64号 2013.7.30  
(年3回発行)

発行／全国棚田(千枚田)連絡協議会

編集／ふるきやらネットワーク

〒184-0004 東京都小金井市本町6-5-3チーム石塚内

TEL:042-386-8355 /FAX:042-385-1180

<http://www.yukidaruma.or.jp/tanada/>

## 特集・若者×地元／若い力を棚田地域へ



女子美術大学生と創る新潟県柏崎市たんねのあかりイベント。あかりの森「四季の木々」(平成24年)。関連記事 p.4



三重県熊野市紀和町丸山千枚田へ訪れる相模女子大学生。関連記事 p.6

特集事例・大山千枚田環境大学の軌跡(千葉県鴨川市)／女子美術大学生と創るたんねのあかり(新潟県柏崎市／長岡造形大学カカシ制作で学生を田んぼに／学生時に石部棚田と出会い、地域おこし協力隊に(静岡県松崎町)ほか



栃木県茂木町棚田の郷かぶとで活躍する宇都宮大学生。関連記事 p.6

# 若者×地元／若い力を棚田地域へ

## 若者の出番 その『兆し』が棚田地域に

棚田学会会長(東京農工大学名誉教授) 千賀裕太郎



6月半ばの棚田学会主催「棚田現地見学会」では、東北は山形県内の、いずれも田植が終わって間もない3箇所の美しい棚田の風景に、参加者一同魅了された。とりわけ山辺町の大蔵棚田と朝日町の楓平棚田でご案内いただいた内容が、本号の特集テーマと関係しているので、感謝の気持ちをこめて、まずここに紹介しておこう。

大蔵棚田(16ha)では、驚くなれ、人気のプロサッカーチーム「モンテディオ山形」の選手たちとの密な交流が始まっていた。この地域の農家の平均年齢が70歳を超えて、これまで魅力的な田園景観を提供してきた、刈り取った稻を自然乾燥するためのクイガケの作業が容易ではなくなった。そこへ非農家支援グループ「農夫の会」が作業を応援するとともに、モンテディオ山形との「ラボ」を仕掛けた。若く逞しいサッカー選手たちが、春の田植え、秋の稲刈り・クイガケ・脱穀の作業支援、そして冬にも雪中サッカーダ

会に、駆けつける。「モンテ」の名義利用も合意されて「モンテ棚田米」(2kg、2500円)はとても好評だ。

そもそも全国のプロサッカーチームは、そのリーグ設立当初から「地域密着型」のスポーツクラブを重要な理念としている。大蔵棚田のようなプロサッカーチームと地元との「棚田連携」が、他の棚田地域にも広がることが大いに期待される。

楓平棚田(14ha)では当地の集落(40戸)に、この1年で3人の若者が新規就農したという。まさに快挙と言つてよい。いずれの若者も地区外に出ていたのだが、自然乾燥米の首都圏デパートでの好評販売、都市から農作業手伝いに来る300人に及び「保全会員」との交流実績、リンク、サクランボ等の果実生産を交えた複合経営など、若者にとっても棚田地域での暮らしに「展望」が見えてきたのだろうと、保全会会長の志藤さんは喜びを隠さない。

こうした事例を知ると、まだまだ「どうこうい、棚田は生きている」と、こちら応援団のほうも元氣をもらひえる。

こうした朗報には、現実的な背景が存在すると思う。いま都会で非常に多くの若者が労働環境の悪化に苦しんでいる。

平洋側の人口高密地帯の都市民の大災害への不安は、現実味が増している。「災害疎開保険」の内容は、とても一般の保険会社ではカバーできない。棚田地域の方々

には、こうした都市民の「気持ちを汲んで、積極的に都市民に手を差し伸べて欲しい。

希望の星は、棚田のとも身近にいる農業者の卵の「若者」、すなわち全国に展開する農業高校(391校)の生徒とその卒業生たちだ。実は、筆者は「日本水大賞(水に関する活動を表彰、国土交通

なか、温かな「ミュニティ」を含む衣食住の暮らしが基礎的条件が存在する、農村の「懐の深さ」を發揮してゆくならば、個々の棚田地域を巡る状況の好転が十分に見込まれることを、楓平棚田の活動が示してくれている。

もう一つの現実的背景に言及しておこう。巨大津波や原発過酷事故は、今後数10年内の再来が高い確率で危惧されるだけに、内陸部農山村の「地域価値」が相対的に非常に高まっている。熊本県の阿蘇山麓地域への関東地方からの若い家族の移住が増えている実態が、私の研究室の卒論(重野友紀)で明らかになった。

また、鳥取県智頭町は、良質の杉の産地として有名な、岡山との県境の山間にある地域だが、町行政として今後の大震災の発生を見越した「災害疎開保険」事業を開始した。一人年間1万円の保険金で、震災時には7日間の宿泊・水・食事を保証する。加入者特典として、お米、野菜などの特産品が届けられる。特に太平洋側の人口高密地帯の都市民の大災害への不安は、現実味が増している。「災害疎開保険」の内容は、とても一般の保険会社ではカバーできない。棚田地域の方々

による豊かな教育実践の果実でもある。

このように、そもそも農業にかかる実践的な専門教育を受けて、農業・農村に高い関心と瑞々しい感性をもつている若者を、私たちが応援しない手はないではないか。現在各地の農村で、たゆましく地域リーダーとして活躍している方の多くが、農業高校の卒業生でもある。本年度、全国の農業高校の教職員団体「公益財団法人全国学校農場協会」と棚田学会との提携活動が開始される。棚田学会としては、皆さまからの斬新なアイデアで、農業高校生・教員との多様な「ラボレーション」企画実施してゆきたい。かつて、期待!

# 大山千枚田 環境大学の軌跡

NPO法人大山千枚田保存会 理事長 石田三示



大山千枚田保存会(千葉県鴨川市)の活動も16年目を迎えた。この活動も何年持つかと言われながら良くなまで来たかという感じである。振り返ってみればオーナーのみなさんをはじめ多くの都市住民に支えられてここまで来た。お客様いしがちなオーナー制度であるが、それをせず一緒に作り上げてきた。その中でも、学生さんは特に若いこともあり遠慮なく活動にかかわってもらってきた。

オーナー制度開始から法政大学キャンパスエコロジーフォーラムの学生や早稲田大学の学生たちとのかかわりがあった。彼らには田んぼ作業時の地元スタッフの

一員として、オーナー欠席の田んぼの田植え、草刈り、稻刈り、駐車場の手伝いからバーベキューの準備など、手の足りないところを手伝つてもらつていて。また、大山千枚田はオーナー制度の導入が関東圏で一番早かつたこともあり、各地域からの視察や大学生の修論、卒論の取材が多くあつた。中山間地域の未来をこの若い学生たちの可能性に期待したいと思い、積極的に協力した。地域が変わることのきっかけや仕組みづくりは別としても「若い力」にあることは確かである。高齢の参加者にとっても若い学生の姿が多く見えることは、将来の可能性を感じさせるものである。

## 大山千枚田環境大学

第8回棚田千枚田サミットが鴨川市で開催された折、学生たちが棚田保全や農業について考えようと企画したのが「棚田環境大学」の始まりである。関東の大学生が中心であつたため、地方でのサミット開催時はなかなか参加が難しい状況の中、3年ほどで途切れてしまった。継続できず懇意に思っていた折、棚田の活動支援に参加していた順天堂大学のT君が「棚田保全とスポーツ振興をテーマに卒論を書きたい。棚田で泥んこバレーガできないか」と相談された。

そこで、今まで棚田を訪れ何らかのかかわりの合った学生たちに声をかけ、「棚田環境

大学」を復活させた。全体の位置づけは「棚田環境大学」として初日は棚田や農業あるいは中山間地域の再生まで学び、2日目に泥んこバレーボールで交流を深めるというものである。運営の中心は大学生に任せ、保存会は田んぼの準備や後援の依頼、賞品の確保などサポートに徹している。

継続していくために、閉会時に次年度の幹事校を決めることとした。大学対抗とはいえそのほとんどがサークルや個人のつながりでの参加であるため、幹事校の代表はかなりの負担になるはずである。そんな中でも、毎年幹事校の学生たちが責任を持って運営し、今年は7年目を迎え、参加11団体で100人を超える参加で盛会に開催された。

確かにほとんどの学生が泥んこバレーに興味を持つての参加であるが、初日の棚田の講義や棚田での体験も真摯に取り組んでいる。参加のきっかけや理由は何でもよい。とにかく中山間地域に足を踏み入れ、何かを感じ取つてもらえばよい。彼らが農作業体験や棚田で泥にまみれてバレーボールを楽しんだ事は、少なくとも田んぼに足を踏み入れた経験のない学生よりも棚田を保全していく意味やいのちを繋いでいく食について考えていってくれると思つ。

あわよくば農業を職業とするなどといふ学生が現れてくれることに微かな期待をするものである。誰が何と言おうとこれから時代を背負つていくのはこの若者たちである。私たち中山間地域で農業に携わるものはその豊かさや守っていくことの必要性を伝えていかなければならぬ。この環境大学がその一つのツールとなると考へる。

# 女子美術大学生と創る たんねのあかり

新潟県柏崎市 竹内吉一 (全国棚田連絡協議会個人賛助会員)



棚田でのアート作品。昼間の様子

大学と一緒に進める作品づくり。ワークショップから

棚田を使ったアート作品展示会場全景(平成22年)



小学生と大学生で作った巨大影絵「たんねッシー」(平成21年)



地元とともに作品の設置

「景色と人に惹かれて」谷根へ  
一夜限りのへたんねのあかり／＼は、平成21年1月、市街地で学習塾を営むS氏の元に、女子美術大学(神奈川県相模原市)デザイン学科の先生から入った1通のメールで始まった。メールは、S氏がかつて同大学付属高校教師だった時の生徒、下田倫子先生からで、「大学生と子供たちが一緒に、アートやデザインを通じて地域を知つて学ぶようなワークショップができる所はないでしょうか」というものだった。ほどなく来柏した先生は、案内された幾つかの候補地の中から、「景色と人に惹かれて谷根を選んだ」と述べておられる。

平成21年8月、谷根に在って閉校する上山小学校(児童数8名)をメイン会場にして、第一回キャンドルアートイベントが催された。小俣伊織君(当時4年生)らは、を考え出した谷根の守護神「たんねッシー」を大学生と一緒にシルエットで浮かび上がり、校舎に刻まれた傷跡も大切な思い出、と紙に写し取つて田植え枠などに貼り作品にした。道の両端や川面には、2000個の空き瓶に入つたキャンドルの灯が揺らめき、1000人の来場者は巨大な影絵と幻想的な夜景に驚嘆。地区民もまた心が大きく揺さぶられた。2年目は、メイン会

が催された。小俣伊織君(当時4年生)らは、谷根の守護神「たんねッシー」を大学生と一緒にシルエットで浮かび上がり、校舎に刻まれた傷跡も大切な思い出、と紙に写し取つて田植え枠などに貼り作品にした。道の両端や川面には、2000個の空き瓶に入つたキャンドルの灯が揺らめき、1000人の来場者は巨大な影絵と幻想的な夜景に驚嘆。地区民もまた心が大きく揺さぶられた。2年目は、メイン会

場を稻刈りが終わった10月半ばの棚田に移し、月や山などをイメージした大きな作品が並んだ。副実行委員長吉川静氏らの発案で代掻きした棚田の水面に、キャンドルの灯りが灯つた作品が映えて、初回の3倍3000人の来場者は一様に感嘆の声を上げた。そしてなんと冬眠しかけていたカエルたちまでが一斉に浮かれ鳴き出した。全く予期せぬ天然のBGMである。TV局1社が夏のプレイベント時から継続取材して、30分番組を制作し県内に放送した。その反響は殊の外大きく、翌3年目の来場者数は実に6000人。嬉しい悲鳴が上がった。

## たんねのあかりしんぶん

相模原市にある大学と谷根は、350km余も離れている。交通費も嵩み頻繁な往来(交流)は難しい。それを補つているのが、大学のあかりスタッフが年4回ほど発行する『たんねのあかりしんぶん』である。参加学生や地元の登場人物によるひととこ便、開催前後の様子などをA3片面一枚にまとめたもので、地元が心待ちにする情報交流紙である。新聞発行の合間に、先生や学生がその年の会場候補地を下見に訪れ、構想を練り素描する。夏になると、日中は素描を基に学生と地元で作品を作り、夜は先生や学生・地元が講師役でミニ講座を開き、交流と相互理解を深める。名付けて「フレイバント」谷根ワークショップ。地元では、遠路を自費で來てくれる大学側に少しでも応えようと、滞在中の自炊で使う米・野菜など食材を提供し、時には谷料理を作りもてなす。

靈峰米山の伏流  
水で栽培した米を谷根の「水」で炊いたご飯は、学生たちが夢にまでみるような味だと先生は評す。大学OGの野田桐子さんは、あかりイベント交流を23年10月の新聞で次のように述べている。「いつ訪れても温かく迎えてくださる谷根の皆さんと谷根という土地は、心地よい時間を過ごさせてくれます。その温かさがへたんねのあかり／＼ですね」。こうして迎えた第4回は24年10月。四季の森をイメージしたアート作品(表紙参照)が、一望できる約3haの棚田に6000個のキャンドルで表現された。来場者は8000人を数え、TV局2社など様々なメディアが催しやその取り組みを報じた。この4年間に、谷根川に棲むカーラ・カガエルをモチーフにしたステッカー・看板・Tシャツ、そして歌もできただ。僅か75戸240人の山村集落の取り組みに世間の耳目が集まる。

谷根に生まれ暮らしている20代の竹内こず枝さんは言う。「私は(中略)大好きな谷根で育つたことを誇りに思う。笑顔溢れる谷根の四季折々の行事が大好き。中でも心待ちにするのがへたんねのあかり／＼だ。美しい明かりが谷根をより素敵な場所へと変身してくれる」(23年8月新聞から)。次回開催は26年。4年間の反省の上に立つた第2ステージの交流が幕を開ける。



女子美生が作成する  
「たんねのあかり新聞」

# 長岡造形大学 カカシ制作で学生を田んぼに

長岡造形大学教授 上野裕治



長岡造形大学生作品  
「生まれたての子馬」



「タマネギ・ジャガイモ・ニンジンと比礼のお米でかれーライスを食いた～い！」



上野連作カカシ「ナナとチャチャを追いかけるオレ、逃げるナナとチャチャ、犬から終われて逃げるウサギとタヌキ」  
(ナナとチャチャというのは私が飼っているビーグル犬)



品評会の様子。集落の子ども達も一人3票を入れ、1等商品はカカシ米10kg！

学生との交流を念頭においていることだ

る。事前に現地を見学し、大学で余りもの木片を集めて制作し、そして一堂に持ち寄って集落の皆さんに人気投票をしてもらう。1等賞はカカシ米10kgで5等賞の1kgである。アパート住まいの学生も多いから大人気だ。また投票には子どもからお年寄りまで参加するものから、国政選挙以上の投票率となる。それが終われば集落のご婦人が作ってくれたおぎりやおしんこを山から取ってきた朴葉をお皿代わりにしてほおばる。何と贅沢なことだらう。

このカカシ・プロジェクトは、2012年度「風景のRe-Designコンペ」(AACCA日本建築美術工芸協会主催)にて優秀作品賞をいただいた。今ある風景にちょっとひと味加えることで、その風景がぐつと美しく見える、樂しくなる、そんな活動やアイデアに与えられる賞だ。学生たちと作るカカシの効果は、このようなランドスケープ・デザインの実践とともに、

学生たちが、田んぼの美しさやそこにある生物を実際に見ること、そして農作業の苦労や田んぼの持つ湛水機能などを実感として感じることができると感じることが、とても重要だと感じている。このように、新たなカカシのある風景は、個性ある農村風景として集落の人々の誇りとなり、また学生だけでなく多くの都市住民にとっても農村への興味を喚起することとなるだろう。比礼カカシ・プロジェクトは、これからも毎年継続していくことにより新潟県を代表する魅力ある農村風景として育っていくことになるとを考えている。

カカシは人の形で立っていても農作業をやっているかのように見せかけ、鳥を追い払うのが目的であると一般的には思われている。しかし本当にそうだろうか？ カカシとスズメ、カカシとカラスなど鳥や動物たちと仲の良い友だちとして童話にもたくさん出てくるし、宮崎駿監督の「ハウルと動く城」、海外作品では「オズの魔法使い」などでは人々の友だとして登場する。

私も自分でカカシを立てて毎日見ていて、カラスの子が飛び立つ練習台にはなっていても、鳥を追い払う役目がある。たが、カカスの子が飛び立つ練習台にはなつていても、鳥を追い払う役目がある。

カカシは人の形で立っていても農作業をやっているかのように見せかけ、鳥を追い払うのが目的であると一般的には思われている。しかし本当にそうだろうか？ カカシとスズメ、カカシとカラスなど鳥や動物たちと仲の良い友だちとして童話にもたくさん出てくるし、宮崎駿監督の「ハウルと動く城」、海外作品では「オズの魔法使い」などでは人々の友だとして登場する。

農作業のなかで、田植え、稻刈りは親戚一同も参加して賑やかなケースが多いが、その間の田の草刈り、畔の草刈りなどは孤独な作業だ。そんなときに力カシが立っていると一瞬でもホツとするのではないか。要は、カカシは

「農作業の友」なのだと思う。あるならば、カカシはもっと自由であつていい。楽しいものであつていい。というわけで、比礼カカシ・プロジェクトのカカシは、楽しく物語性のあるカカシを学生たちと制作してきた。

カカシ的な芸術作品は、「越後妻有大地の芸術祭」でも存在する。また新潟県内はもとより日本中で「カカシ祭り」は行われている。そんな中で、私たちの制作しているカカシの特徴は、地域住民と大

- 1: 地元のお母さんたちとバーベキューを楽しむ宇都宮白楊高校生!!  
2: 新緑の棚田に映るあで姿。宇都宮白楊高校生によるファッションショー

毎年5月、自然に囲まれたのどかな農村地域に数百人の方が押し寄せ、田植えが行われます。この山内甲地区では、平成19年から「棚田の郷かぶと」としてオーナー制に取り組み、7年目の今年は36組のオーナーが自然豊かな棚田での米作りを体験しています。

このオーナー制度では、田植えや稻刈りはもちろん、棚田の草刈りや紅葉散策、さらに栃木県立宇都宮白楊高校の生徒による吹奏楽の演奏やファッショショーンショーを棚田のあぜ道で楽しむことができます。年間を通じて行われるイベントでは家

毎年5月、自然に囲まれたのどかな農村地域に数百人の方が押し寄せ、田植えが行われます。この山内甲地区では、平成19年から「棚田の郷かぶと」としてオーナー制に取り組み、7年目の今年は36組のオーナーが自然豊かな棚田での米作りを体験しています。

このオーナー制度では、田植えや稻刈りはもちろん、棚田の草刈りや紅葉散策、さらに栃木県立宇都宮白楊高校の生徒による吹奏楽の演奏やファッショショーンショーを棚田のあぜ道で楽しむことができます。年間を通じて行われるイベントでは家

# 棚田の郷かぶと ともに歩む若者たち

茂木町農林課農業振興係 綱河健太郎



族連での参加も多く、子供たちは日頃体感できない泥の感触や自然の香りを肌で感じています。また、宇都宮大学の農村地域活性化サークル「さとびと」もオーナー制度発足時から参加して地元の方と一緒に農作業に汗を流しています。

棚田の郷かぶとの五味淵光弘会長はこう語ります。

「この制度がなかつたら、自分の田畑を耕すだけで交流はあまりないでしょう。自然豊かな棚田にオーナーが集まることで、地域は活性化され、それぞれの交流も密になります。また、さとびとがこうやって地元の人と関わりながら実際には土に触ることは貴重な体験になると思います。オーナー制度を続けていくには後継者不足などの課題もあります。さとびとのメンバーに農業を継いでほしいなどと大きなことは思っていません。ただ、私たちは今日来てくれた人を喜ばせたいのです。その結果が我々地元の元気につながるのです。そして私個人は棚田の郷かぶとの自然と、ここで取れるお米、そしてここに集まる人々を融合させたいのです」

は、山内甲地区に大きな活力をもたらしているようです。

山千枚田は、1601年に作られたと記されています。しかししながら、過疎・高齢化による耕作放棄地の増加にあって平成初期には530枚まで減少し

てしましました。現在では、平成5年に結成された「丸山千枚田保存会」を中心にして丸山千枚田で日本の最大規模の枚数を誇る棚田で日本でも最大規模の枚数を誇る棚田で日本の大選にも選ばれています。

## 相模女子大生が 丸山千枚田に訪れて

熊野市農業振興課農業振興係 上田晃生



訪れている学生も少なくありません。何度も訪れる学生たちに地域

も歓迎ムードが高まり、訪れる学生にも熊野市への愛着が生まれ熊野ファンが多く誕生しています。交流の内容としては、丸山千枚田での「田植え」、「稻刈り」や熊野市の特産品である香酸かんきつ「新姫」※1) 収穫など高齢化で人手不足時に訪れる作業に参加しています。

学生たちが熊野市を訪れるだけではな

く、相模女子大学の学園祭の中で開催される地域物産展では、熊野オーナーを設けていただき、熊野市からの参加者と学生たちで熊野産品を販売しています。また、熊野の特産品の利用方法の検討や販売方法の提言などをいただいています。さらには、卒業後にも丸山千枚田のオーナー※2)となり熊野市を訪れ丸山千枚田の保全に貢献いただいている方もいます。

この交流が、地域の活性化や学生たちの成長につながり、両者がより発展する形で末長く続いていることを願っています。

\*1: 熊野市にしかない香酸かんきつ「新姫」 平成9年11月に新しい香酸かんきつとして品種登録されており、現在は熊野市の許可なく栽培できません。特長としてはヘスペリジンなど健康機能性成分や栄養成分がたっぷりと含まれています。  
\*2: 丸山千枚田のオーナー制度 「丸山千枚田を舞台に都市住民との交流を図り、みんなの手で丸山千枚田を守っていこう」という趣旨のもと丸山千枚田オーナー制度の運営を熊野市ふるさと振興公社が行っています。毎年100組を超える申し込みがあります。オーナーは、昔ながらの手作業による田植えや稻刈りのほか、地域の伝統行事「虫おくり」等にも参加することができます。



# 学生時に石部棚田と出会い 地域おこし協力隊に

松崎町地域おこし協力隊 豊嶋 学



棚田百笑くらぶ。写真左が作業指導をする豊嶋さん



オーナーといしづび隊による畦つけ



石部棚田

私が石部棚田（静岡県松崎町）にかかるようになったのは、富士農業大学（現常葉大学富士キャンパス）の1年生の時にボランティアで参加していた友人に誘われ、畦切りに参加したのが最初でした。実家が新潟県の兼業農家で米作りの経験はあったものの、鋤を使った手作業は勝手が違い、その大変さは想像を超えるものでした。しかし、作業を通じた地元の方との交流に魅力を感じ、以来、畦切り、畦塗り、草刈りの片付けの年3回の作業にかかさず参加し、気が付いてみれば田植えや稻刈りにも参加するほど棚田が好きになっていました。

卒業論文も棚田を取り上げ、大学卒業後も何とか、棚田保全にかかわりたいと考えていた中、平成23年4月に松崎町地域おこし協力隊に採用され、念願の棚田保全活動がスタートしました。

石部棚田は、昭和50年代以降、徐々に耕作が放棄され、原野化していくものを、地域住民が郷土の宝として再認識し、平成12年に復田したものです。平成14年度に静岡県内で初となる棚田オーナー制度を導入したほか、棚田米を使った焼酎「百笑一喜」などの商品開発、一社一村いすおか運動による企業・大学等による支援、松崎高等学校の体験活動、松崎小学校の「棚田百笑くらぶ」の活動などの取り組みを行い、棚田保全の先進地と思われていますが、他の地域同様に高齢化や担い手不足が深刻な問題となっています。

私の地域おこし協力隊としての活動は、棚田の農作業の従事、地域おこしの支援、環境教育活動、地域の「ミユニティ活動」です。石部地区に住み、棚田保全に当たる地域の人たちとのかかわりを通じて、

学生時代にはわからなかつたものが段々見えてきました。田起し、代がき、水管理、寄せ刈りなど大変な作業が日々行われることを知りました。作業は若い私にとっては重労働です。それを、70歳を過ぎる方が棚田を将来に残そうと、黙々と土曜、日曜もなく作業を行っています。地域の人たちが若い自分に何を求めているのかを考えると、作業に率先して汗を流し、地域の人たちとともに行動し、保全について一緒に考えていくという姿勢が必要だと思いました。そして、その本気で頑張っている姿を見て、地域の人たちが町外から入ってきた自分を認め、信頼し、地域おこしに協力してくれるのだと感じています。

これからも棚田を守り続けていくためには、作業にかかわる「守りびと」をいかに増やしていくかということが重要になります。平成25年度からは、地元や近隣在住の方を中心、「いしづび隊」を組織し、日常の管理や作業をサポートいただく体制も整いつつあります。

また、少しでも多くの人に棚田に関心を持ってもらおうと棚田を活用したイベントも実施しています。棚田の畦にろうそくを灯す「石部の灯り」や収穫後の棚田の段々を活用したコンサート「石部音楽博覧会」も平成24年度から始まりました。なかなか、すぐには作業協力とはならないかもしれません、イベントを通じて棚田を訪れた人が、今後活動にかかわっていただければ大変嬉しい思います。かつて農作業などに、地域の人が共同で助け合う「結い」という仕組みがありました。

はりません。そこには、多くの皆さんがあり、保全に対する認識を共有し、ともに活動する新しい時代の「結い」が必要となっています。

私の地域おこし協力隊としての任期も残り1年を切りましたが、「棚田のことをよくやつてくれた」と言われるよう、また、自分自身としても悔いの残らないよう最後まで頑張っていきたいと思います。そして、任期終了後も何らかの形で棚田保全のお手伝いができるかと考えています。

棚田保全は、一人の力でできるものではありません。そこには、多くの皆さんがあり、保全に対する認識を共有し、ともに活動する新しい時代の「結い」が必要となっています。

棚田を活用したイベント「石部の灯り」





2012年7月と8月に防除作業の補助を行った下関市立大メンバー。  
手分けをしてホースを持つ（横山順子撮影）

# 若者 × 地元

## 山口県長門市油谷の棚田と大学生

取材・文：石井里津子



下関市立大学生が作成した大きな案内マップ看板。ここは多くの人が道に迷いやすい場所で地元から看板の要望があがった。この制作費は県事業の助成金を利用



2013年2月、下関市立大も参加した大迫力の野焼き。火の管理は重要な役目（横山順子撮影）

### 県が仕掛ける地元と学生の 「お見合い」事業

今、棚田地域に限らず、全国の農山村で「若い力」を呼び込もうとする動きが盛んになっている。若い力である学生たちも地域の活性化に協力したいと意識が高い。両者をうまくつなげられれば……。

山口県ではこうした思いを県独自の「中山間地域元気創出総合支援事業（集落支援事業）\*1）として実現させてきた。この事業は平成23年度にスタートし、名前を変え3年目を迎える。山口県総合企画部中山間地域づくり推進課の田村尚志さんはこう話す。

「山口県は中山間地域の多い県で、高齢化が進む中山間地域の支援は大きな課題。若い人たちが入るだけで地域は元気になります。地域の活力を生み出すために外部の力をうまく活用していきたいと考えています。

この事業では、まず最初に地元の要望を、市町村を通じて申請してもらい、その希望に添う形で学生側にエントリーしてもらいます。そこからマッチングさせていくのです」

いわば、地元と若者の「お見合い」。そのマッチング業務を担うのは、山口県立大学附属地域共生センター内の「やまぐち中山間地域づくりサポートセンター」である。地元からの要望は毎年約20地域にのぼる。若者サイドは、山口県内を中心とする大学・短期大学・高等専門学校・専修学校に在籍する学生5名以上のグループが対象だ。1グループにつき上

限30万円が助成される仕組みである。

このお見合いが成立し、活動が3年自に入つた地域の一つ、長門市油谷・東後畑の棚田を取材した。

### 荒廃が進む油谷・東後畑の 棚田

を行っている。

「棚田は平坦地と違って、米を作るための環境作りが必要です。棚田周辺の草刈りや陰を作る木を切ったり、ため池の修理、畦畔の石積みの補修など耕作の環境を作るのに手間がかかるので、学生たちの手伝いはたいへん助かりります。草刈り機は危ないので頼めませんが、水稻防除のホース張りや転作管理田の草焼きなど人手がいる作業に来てもらえてありがたいですよ。

交流をはじめ活性化対策に取り組むのは、米づくり一本でやってきたこの地区にとってはたいへんです。毎年同じ繰り返しで米を作るようにはいかない。それを、提案があることではじめて話し合いをし、一步が踏み出せるわけです。

学生たちが訪れるのも最初はこわびわでした。でも今は、みんな孫が来るみたいな感覚で会うのを楽しみにしちりましたね」

### 若者たちと「米粉パン」の 夢を抱く

「日本の棚田百選認定エリアは、棚田のほんの一部。7ha 210枚です。平成11年の認定から14年、このうち3分の1が荒れています。棚田は水を張つて米を作つてこそ棚田。耕作放棄される棚田をなんとかみんなで耕作しようと平成15年に當農組合を結成しました」

東後畠當農組合は集落内16戸で結成。各自、自分の棚田を7ha～27haほど耕しながら、東後畠で耕作放棄された棚田9haを請け負い、そのうち2.5haで米づくり

を行っている。

「棚田は平坦地と違つて、米を作るための環境作りが必要です。棚田周辺の草刈りや陰を作る木を切つたり、ため池の修理、畦畔の石積みの補修など耕作の環境を作るのに手間がかかるので、学生たちの手伝いはたいへん助かっています。草刈り機は危ないので頼めませんが、水稻防除のホース張りや転作管理田の草焼きなど人手がいる作業に来てもらえてありがたいですよ。

交流をはじめ活性化対策に取り組むのは、米づくり一本でやってきたこの地区にとってはたいへんです。毎年同じ繰り返しで米を作るようにはいかない。それを、提案があることではじめて話し合いをし、一步が踏み出せるわけです。

学生たちが訪れるのも最初はこわびわでした。でも今は、みんな孫が来るみたいな感覚で会うのを楽しみにしちりましたね」

東後畠當農組合は集落内16戸で結成。各自、自分の棚田を7ha～27haほど耕しながら、東後畠で耕作放棄された棚田9haを請け負い、そのうち2.5haで米づくり

を行っている。

「棚田は平坦地と違つて、米を作るための環境作りが必要です。棚田周辺の草刈りや陰を作る木を切つたり、ため池の修理、畦畔の石積みの補修など耕作の環境を作るのに手間がかかるので、学生たちの手伝いはたいへん助かっています。草刈り機は危ないので頼めませんが、水稻防除のホース張りや転作管理田の草焼きなど人手がいる作業に来てもらえてありがたいですよ。

交流をはじめ活性化対策に取り組むのは、米づくり一本でやってきたこの地区にとってはたいへんです。毎年同じ繰り返しで米を作るようにはいかない。それを、提案があることではじめて話し合いをし、一步が踏み出せるわけです。

学生たちが訪れるのも最初はこわびわでした。でも今は、みんな孫が来るみたいな感覚で会うのを楽しみにしちりましたね」

東後畠當農組合は集落内16戸で結成。各自、自分の棚田を7ha～27haほど耕しながら、東後畠で耕作放棄された棚田9haを請け負い、そのうち2.5haで米づくり

を行っている。

「棚田は平坦地と違つて、米を作るための環境作りが必要です。棚田周辺の草刈りや陰を作る木を切つたり、ため池の修理、畦畔の石積みの補修など耕作の環境を作るのに手間がかかるので、学生たちの手伝いはたいへん助かっています。草刈り機は危ないので頼めませんが、水稻防除のホース張りや転作管理田の草焼きなど人手がいる作業に来てもらえてありがたいですよ。

交流をはじめ活性化対策に取り組むのは、米づくり一本でやってきたこの地区にとってはたいへんです。毎年同じ繰り返しで米を作るようにはいかない。それを、提案があることではじめて話し合いをし、一步が踏み出せるわけです。

学生たちが訪れるのも最初はこわびわでした。でも今は、みんな孫が来るみたいな感覚で会うのを楽しみにしちりましたね」

東後畠當農組合は集落内16戸で結成。各自、自分の棚田を7ha～27haほど耕しながら、東後畠で耕作放棄された棚田9haを請け負い、そのうち2.5haで米づくり

\*1) 平成23、24年度は「中山間地域元気創出若者活動支援事業」として実施。平成25年度から「中山間地域元気創出総合支援事業（集落支援）」と名前を変えて継続中だ



平成7年に撮影された油谷・東後畑の棚田。ここが日本の棚田百選の地となっている（撮影：安成恒昭）。現在は、手前の方は荒れてしまったという



「開田の歴史を調べてみても史料に何一つ残されていない。言い伝えとしては、毛利の隠し田だったといいます。これだけのため池と田んぼを造成するのは大きな資本と大勢の人が動いているのは確かですね」と三村さん

市立大学附属地域共創センターの横山順子さん（NPOゆや棚田景観保存会発起人）である。

「今年度は作業のお手伝いほかに、交流サロンを意識した米粉パンでのカフェ作り構想が進行中ですし、元保育園を利用した交流館を生かして企業の農作業体験プログラムも作っていきたいと考えているんですよ」と話す。

2年間の作業実績は、防除作業の補助や交流館周辺の生け垣の間引き、草刈り、その焼却等。さらに棚田での野焼き（當農組合管理下の休耕田で草刈り後の草を一斉に燃やす）支援。昨年度はこうした作業のほかに、地区の案内マップ看板も製作し、分かれ道に立てた。そして平成25年度は地元の要望を受け、米粉パンの製造販売を実現させることも課題だ。

また新たに、山口県立大学（山口市）



平成18年にできた展望所にはトイレも併設。  
田んぼに水が張られ、漁り火が映える5月  
月の季節はカメラマンたちが列をなし、道路  
は危険な状態に



2.7haを耕す三村さんだが、そのためと共に始めたため池4つ、個人ため池5つも管理している。農組合の将来は定年後の地元出身者を呼び込んでいきたいという



平成17年に、長門市内を中心とした有志でNPOゆや棚田景観保存会が発足。耕作放棄地で芋を育てたり(写真)、イベントを開催しこの地に人を呼び込む



との連携もはじまろうとしていた。伺った6月29日(土)には、山口県立大学国際文化学部文化創造学科の水谷由美子教授と学生4人が油谷へと足を運び、三村さんを訪ねていた。

4年生は卒論でもかかわっていきたいと話し、水谷教授からは、若い女性たち向けの農作業着のファッショントレーニングから発信していきたいと話が進められていた。これは、安倍昭恵首相夫人が共同研究者として参画しているものだ\*2)。

「夕陽が美しい棚田のある油谷から発信しましよう。私たちは、2次産業から6次産業にかけてのお手伝いをしていく」と水谷教授が力強く話していた。

三村さんは言う。

「集落が衰退していくのをただ待つんじゃなく、10年先を見ながら最大限考えられることを一步踏み出してやっていか

なきゃならんと思うんです。當農組合もその一つ。そして米粉パン。米粉パンなら手間をかけずにはじめられるんじゃないかな」と思っています。

また今、小水力発電がこの地域でもできないか、下関市立大のみなさんに相談もしています。ここのがんばるキャラ（潜在能力）を最大限引き出せるよう、今までできること、考えられることをやっておかないと」

◎

若者は、マンパワー不足を補っているだけではなかった。若者の力（存在）は、夢の原動力となる。若者が来ることで、「明日」を感じ、集落の夢が新たに生まれるのだ。

\*2) 平成23年から山口県下関市安岡で田んぼを借り、完全無農薬、無肥料の米づくりに取り組む昭恵夫人。おしゃれな農作業着の必要性を感じたことが今回の企画につながっている

# 大学生のみなさん、農村のみなさんと一緒に 汗を流しませんか

学生サークルプロデューサー 中里良一 (NPO法人せんがまち棚田俱  
樂部理事、農林水産省職員)

2013年2月に4大学さとうきび刈り応援交流会in沖縄



学生サークルを  
プロデュースしています

私は、現在、静岡大学「棚田研究会」、琉球大学「おきなわ食・農研究会」、山梨県立大学「農村地域資源研究会」、信州大学「むらづくり応援隊」の4つの学生サークルのプロデュースを行っています。大学生が農業、農村の応援などでかかわることのメリットや、サークルといふ枠組みでのかかわり方が効果的であること等について紹介します。

## 静大棚田研究会 地域に喜ばれています

(1) 静岡大学「棚田研究会」(2009年設立)の活動の様子

### ① 棚田保全の農作業支援

農作業機械が入らない棚田において、手作業による畦塗り、田起こし、代掻き、田植え、稻刈り、脱穀及び草刈り作業の支援を行っています。

### ② 「棚田オーナー事業」のインストラクター

棚田オーナーの作業時における、當農指導補助や話相手等の役割を担っています。

ア～若い夫婦、親子など主に都市住民は、大学生とのコ

ミニューケーションも楽しんでいます。

### ③ 「棚田市場」の開催

棚田の作業日や学園祭で、「棚田市場」(ネット販売)を開催し、棚田にあるサークル農園で収穫した古代米やさつまいもなどを利用し「いも餡たい焼き」や「古代米入りパウンドケーキ」など自前で栽培した農産物を使ってオリジナルにこだわった商品開発、販売を行っています。(2013春学園祭で模擬店投票1位を獲得(紙面の関係上静大のみの紹介とします))

### (2) 大学生サークル間の交流を積極的に進めています

2013年2月に4大学さとうきび刈り応援交流会in沖縄、6月に3大学棚田で田植え応援交流会in静岡を開催しました。9月に山梨県内で交流会を開催する予定です。

## 農家、農村地域にとって、 大学生が農作業の応援などで かかわることのメリット

農家は、農作業の応援により、労務の負担軽減が図られます。また、必要な作業人数が部員の数だけでは足りない場合でも、部員がサークル外の一般学生に呼びかけ、必要な作業人数を確保するので、計画的に労務を確保できます。また、大学生から意見、アイデアを聞き、農業や地域活性化の取り組みにつなげています。多数の大学生が農作業やお祭り、イベントなどで地域内に入ることにより、農村地域が賑やかになっています。

一方、大学生が尊敬の念を持つて、農家に接するとともに景観など地域の素晴らしさを称賛することにより、農家は、農業や住んでいる農村地域に誇りを持ちます。特に、高齢者は、若者と積極的にミニューケーションを図ります。また、若者の農業、農村への理解が進むことにより、嫁問題の解決も期待されています。

## 大学生にとって、農業、農村に かかわることのメリット

実際に農業を体験し、農家の話を聞き、様々な社会人のアドバイスを受けることにより、大学の講義、研究の意味が実感として理解でき、農業、農村に関する興味、知識、探究心等が深まります。また、サークルの棚田保全の支援活動等が新聞等で紹介されることにより、社会貢献、地域貢献の意味、必要性を深く考えるようなるとともに、「世の中に少しは役に立っているのだ」という喜びと自信を持つことができます。

一方、様々な人とかかわることにより、将来の職業選択(農業、研究者、関係機関)の参考となるとともに、社会人との接し方を学びます。

## サークルでの応援が効果的です

現在多くの農村地域が、大学や大学生をゼミ、研究、農業農村体験等様々な形で受け入れていますが、この受け入れが農村地域にとって重い負担にならないようにすることが重要です。

農作業や地域づくりを応援する場合、活動的目的意識の共有していつでもかかわれる(②1年間を通してかかわれる)④必要な時に必要な人数が確保できる⑤農作業のスキルが期待できるなどの点から、サークルという枠組みでのかかわり方が非常に有効であると考えます。

# NPOビオトープ孟子と棚田むすびの会のコラボイベント「早乙女田植え神事」を開催

棚田むすびの会 代表 中崎義己

(個人賛助会員 山田久美子代理)



2012年6月10日、和歌山県海南市孟子の棚田にて、NPO法人 自然回復を試みる会ビオトープ孟子さんと棚田むすびの会のコラボイベント「早乙女田植え神事」を開催し、そこで個人会員の活動補助を利用させていただきました。このコラボは今年も行い2回目となり、昨年も早乙女田植えをしたのですが、今年は、棚田むすびの会会員の大坂市大正区の上之宮八坂神社の宮司さんのご協力を得て、

古式にのつとり神事として執り行われました。

今年の参加者は約50名、うち早乙女が15名、カメラマンも大勢で、普段静かな孟子の棚田が「秋葉原か!」というくらいの賑わいとシャッター音の嵐でした。

神事は、早乙女と早苗と田ん

ぼをお祓いして、山の神を田に田の神として迎えます。そして田の神は早乙女を通じて早苗にエネルギーを与え、大地にしつかり根付かせる働きをされます。

早乙女は小さい子どもから還暦の方まで、紺のかすりの着物に赤い腰巻き、赤いたすきにベトナムから取り寄せた編み笠と

いう揃いの衣装です。着物は古着をコツコツと買い集めたものですが、笠だけは中古で揃えることが難しく、数が多いため大きな金額になりますので個人会員活動費の助成は大変助かりました。緑に赤い衣装が映えて美しく、それは緑に囲まれた棚田ならではの景色。カメラマンやギャラリーも飽きることなく輝いて見えました。

田植えが終わったら早苗饗。

早乙女たちに視線を注ぎ、それには応えるように彼女たちも美しく輝いて見えました。

田植えが終わったことを祝い、手伝ってくれた人々を酒宴で労うことです。元はサノボリから訛つたとのこと。サノボリは田植えが終わり田の神様(サ)が天に帰つてゆくこと、昇つてゆくことで、日本の伝統文化の奥深さには驚きます。

棚田を保全することは、こうした景色や伝統を継承することでもあるので、改めて棚田保全活動の意義を認識する次第です。また来年も各地の棚田で早乙女田植えができるよう活動を続けていきたいと思います。



佐藤藤三郎著 本の泉社刊  
2012年12月(定価1500円+税)

『すがのあだまで考える』

BOOKS

著者の佐藤藤三郎氏(昭和10年生)は、山形県上山市(旧山元村)で先祖代々の棚田を耕す「百姓」であり、農業問題評論家であり、また作家である。藤三郎氏に大きな影響を与えたのが、彼が戦後すぐ入学した中学に新任教師として訪れた無着成恭先生だった。「無着先生」といえば、「全国子ども相談室」の回答者として知る人も多い。若き無着先生が戦後、地元山形で展開した「生活綴り方」に代表される教育方法は、1951年に子どもたちの文集が『やまびこ学校』として刊行され、大きな話題を呼んだ。その教え子であり、今も、人が減りゆく地元の山村で棚田を耕しながら、世を問うているのが佐藤藤三郎氏なのである。藤三郎氏は本著で無着先生の教えを振り返っている。その中に「自分の目で物事を見る」「自分の脳みそで考えろ」「自分の言葉で話せ」という教えが登場する。その教えを貰き生きてきた藤三郎氏の生き様が見えてくる。タイトルは、山形なまりで茶目つ氣たっぷりだが、「自分の頭で考える」だ。地域に根ざし、自分の頭で考え生きてきたからこそ、人生に必要なものは何か——数々のヒントが随所に散りばめられている。

(石井記)

# 第19回全国棚田(千枚田)サミットニュース

## みなでつれもんきてよ~

あらぎ島とみかんで有名な有田川町でのサミットは、「人、まち、棚田」とともに未来へ」をメインテーマとして開催されます。8日は、開会式前に、地元の子供たちによる「棚田へいこう」の大合唱が行われます。少ない人数でも元気いっぱいの姿を是非ご覧ください。

開会式は、吉備中学校を会場に行われます。有名写真家の方による「棚田はなぜ美しいのか」を題材にした基調講演、地元高校生と大学生による事例発表を通じて、棚田の未来への承継を考えていきます。

分科会は、①棚田と文化的景観保全のあり方、取り組み②梯田(棚田・段々畑)・条件不利地域における土地利用の意義と保全 ③棚田保全活動を契機とする地域活性化・地域づくり ④学生ボランティアと地域による棚田保全への取り組みをテーマに4つの会場で行います。

参加者の皆さまが楽しみのひとつにされている全体交流会は、分科会終了後、再び吉備中学校会場で行われます。地域の特色を活かし飲食関係者が腕を振るつた「おもてなし料理」と和歌山県ならではのアトラクションにご期待ください。また、9日の現地見学会は、日本の棚田百選「あらぎ島」、あらぎ島全景を一望できる「三田地区」、他に類を見ない高低差を誇り地域全体が棚田である「沼地区」の3コース(ひとり1コースのみ選択可)を計画しています。

そして、和歌山県でお祝い事には欠かせない行事である「お餅まき」を最後に行い、参加者全員で今回のサミットを盛大に締めくくりたいと考えています。参加者の方々が、自ら参加し・考え・そして未来へとつないでいく今回のサミットに、大勢の方々がお越しくださいますようお待ちしています。

なお、参加者数の制限はありませんが、必ず事前申し込みを行われるようお願いいたします。また、申し込み状況により、実行委員会事務局において、調整させていただくことがありますので、ご理解とご協力を願っています。

(和歌山県 有田川町長 中山正隆)

### 三 田

あらぎ島を眺め下ろすことのできる三田の棚田。あらぎ島の展望場の背後の斜面に広がっています。三田も美しい棚田の集落です。戸数は56戸。みんなで地域を守っています。ぜひ、お越しください。

三田区長

坂本頼宣さん

あらぎ島の対岸に広がる棚田で、この田園エリアも国的重要文化的景観の選定区域である。集落と棚田の共生した景観を形成している。あらぎ島の眺望とともに現地を散策する。

### あらぎ島景観保全保存会 畠中辰也さん



あらぎ島は約2.34haで、耕作者がわずかに6戸です。耕作者たちを中心いて、棚田を守っていくために「あらぎ島景観保全保存会」を平成8年に発足させました。景観は耕作があってのこと。地元もがんばっています。

日本の棚田百選で、国の重要文化的景観にも、今年選定予定のあらぎ島。江戸時代初期、当時の庄屋、笠松左太夫によって拓かれた。湾曲した有田川の流れに沿って扇状の棚田が対岸から眺望できる。

### あらぎ島



60年以上、

あらぎ島を耕してきました。

昭和28年7月17~18日の紀州大水害で、あらぎ島の棚田も押し流されました。

田んぼがみな埋まってしまい、ガラスなども入り込み、土も入れ替えたんです。今ある姿はそのときにみんなで復興した形です。

あらぎ島耕作者  
池田史智さん

## 現 地 見 学 地 紹 介

# 平成25年11月8日(金)~9日(土) 和歌山県有田川町開催

## テーマ:人、まち、棚田 ともに未来へ ~伝えよう!まもる心、受け継ごう!豊かな恵み~

### 開催プログラム

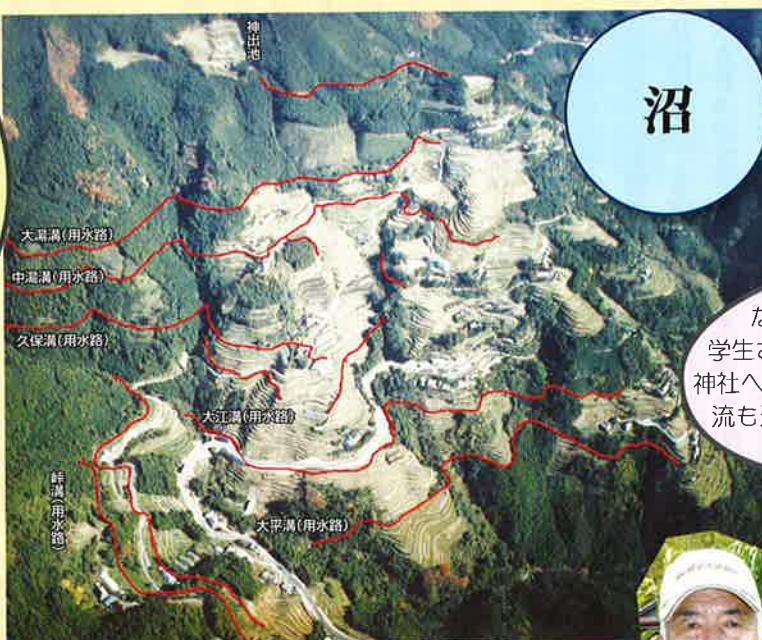
| 時 間         | 内 容  | 会 場                          |
|-------------|--|------------------------------|
| 10:30~11:20 | 全国棚田(千枚田)連絡協議会 総会  | 吉備中学校体育館                     |
| 12:20~12:50 | オープニングセレモニー  |                              |
| 13:00~13:30 | 第19回全国棚田(千枚田)サミット開会式   |                              |
| 13:30~15:00 | 基調講演 写真家 青柳健二氏<br><br>事例発表<br>1.あらぎ島等での取り組み 県立有田中央高校<br>2.沼の棚田における取り組み 和歌山大学観光学部   |                              |
| 15:30~17:30 | 分科会<br><br>第1分科会「棚田と文化的景観保全のあり方、取り組み」<br>第2分科会「梯田(棚田・段々畑:条件不利地域における土地利用)の意義と保全」<br>第3分科会「棚田保全活動を契機とする地域活性化・地域づくり」<br>第4分科会「学生ボランティアと地域による棚田保全への取組」<br>首長会議 | 地域交流センター<br>A L E C<br>ほか4会場 |
| 18:00~20:00 | 全体交流会  | 吉備中学校体育館                     |
| 8:30~11:30  | 現地見学会  | あらぎ島<br>三田の棚田<br>沼の棚田        |
| 13:00~13:45 | 分科会まとめ(報告)   | しみずふれあい<br>ドーム               |
| 13:45~14:15 | 第19回全国棚田(千枚田)サミット閉会式   |                              |
| 14:20~      | エンディングイベント「お餅まき」   |                              |

問い合わせ先 第19回全国棚田(千枚田)サミット有田川町実行委員会 事務局

有田川町役場 清水行政局 産業振興室 内 〒643-0521 和歌山県有田郡有田川町清水387-1

TEL:0737・52・2111(代) FAX:0737・25・9005(直)

ここは  
もともと30haの  
棚田が耕されていました。山椒畑に変わるものなど、今は8haばかり。そんな沼に今、「棚田ふあむ」の若い力が元気をもたらしています。ぜひ、沼へお越しください。



沼の農業をまもる会会長  
松田壽夫さん

標高230~600mにわたって棚田が拓かれており、サミットでは400~500m付近を散策する。平成23年から和歌山大学観光学部の学生たちが結成する「棚田ふあむ」と交流を深める地域。



沼区長  
中川雅弘さん

### 第1分科会

「棚田と文化的景観保全のあり方、取り組み」  
コーディネーター:早稲田大学文学学術院 教授 海老澤表  
「重要文化的景観」選定と地区的特長を活かした取り組みの報告とともに、分科会参加者と幅広い意見交換を行う。

### 第2分科会

「梯田(棚田・段々畑:条件不利地域における土地利用)の意義と保全」  
コーディネーター:和歌山大学システム工学部 教授 養父志乃夫  
棚田・段々畑とともに、条件不利地域であり地域の方々が一生懸命保全・活用に取り組んでいることを知ってもらい、取り組みへの意義と合意形成を図るきっかけに。

### 第3分科会

「棚田保全活動を契機とする地域活性化・地域づくり」  
コーディネーター:東京農工大学 大学院客員教授 福井 隆  
棚田地域が抱える課題に対し、特徴的・先進的な取り組みをしていく団体からの事例報告と、身近なテーマ設定による会場とパネラーが一体となった意見交換を行い、今後の保全と地域づくりを考える。

### 第4分科会

「学生ボランティアと地域による棚田保全への取組」  
コーディネーター:和歌山大学観光学部 准教授 大浦由美  
都市住民等との交流による棚田保全の仕組みづくりを考えるため、今回は「学生ボランティア」に特化し、学生及び地元活動組織の方をパネラーとして双方の思いとボランティアの効果、受け入れ地域の課題等を検討する。

### 首長会議

コーディネーター:東京農工大学名誉教授 棚田学会会長 千賀裕太郎  
テーマ(案):棚田(条件不利地)における保全活動支援の充実。  
農地・水保全管理支払交付金単価の地域補正、農地・水保全管理支払制度における「地域ぐるみ」要件の緩和について



地域でも交流が  
なくなってきたなか、和歌山大学の  
学生さんたちが訪れたことで約50年ぶりに地元  
神社へ餅を担いで奉納できたり、そばを打ったり交  
流も進んでいます。5月には雨の中、田植えも一  
緒にやりましたよ!



和歌山大学「棚田ふあむ」のメンバーたち  
沼のみなさん

## 会長に就任します

熊本県山都町長

工藤 秀一

平成25年度全国棚田（千枚田）連絡協議会の会長に就任いたしました、熊本県山都町長の工藤です。  
1年間皆様のご支援、ご協力を賜りながら会の運営に当たつてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

また、協議会活動を通して、地方の田舎の魅力を都市住民に理解していただき、棚田の農村景観を維持していくための努力が必要であること、そして農政の中で条件不利地域への、社会政策としての拡充を図りたいというメッセージを、多くの皆様と一緒に発信できればと思っています。

さて、昨年10月19日・20日の両日、「子どもたちへ残そう地域の宝～地域が育み続ける棚田の文化と景観～」をメインテーマに当町で開催されました「第18回全国棚田（千枚田）サミット」には、全国各地から多くのご参加をいただき、盛会のうちに終了できました。これもひとえに、前会長笠松和市前上勝町長様はじめ多くの皆様のご支援の賜物と厚く御礼申し上げます。

広大な面積の山都町に、全国各地から多くの皆様をお迎えするにあたり、会場や交通、おもてなしなど心配な点もありました。

しかし、山都らしいサミットにしようと、地域の皆様の熱い思いの中で、大会を開催できたことを誠に嬉しく思っています。

今年の「第19回全国棚田（千枚田）サミット」は、11月8日・9日の2日間、「人、まち、棚田ともに未来へ～伝えよう！まもる心・うけ継ごう！豊かな恵み」をテーマとして和歌山県有田川町で開催されます。

有田川町は、日本の棚田百選に選ばれた四季折々に美しい風景の扇形をした「あらぎ島」や、急勾配に張り付くようなみかん畑など、目を見張るような光景が広がっています。サミットが開催される時期には色づいたミカンの景色を見ることが出来るでしょう。

終わりに、サミットでの情報交換や交流を通じて、棚田の保全活動がより一層推進されることを願うとともに、当協議会のさらなる発展と会員の皆様のご健勝、ご活躍を祈念いたしまして、会長就任のご挨拶とさせていただきます。

## 会長を退任します

徳島県上勝町長

笠松 和市

平成24年度に全国棚田（千枚田）連絡協議会の会長を仰せつかり、微力ながらその任を務めさせていただきました。1年間会員の皆様には、ご支援、ご協力を賜り、紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

さて、昨年の第18回全国棚田（千枚田）サミットは、「子

どもたちへ残そう地域の宝～地域が育み続ける棚田の文化と景観～」をテーマに、「風かおる、文楽と石橋の郷山都町」で開催されました。開催に際しまして熊本県・山都町の方々には計り知れぬ程のご苦労があつたことと想います。その中でも、地元で採れた棚田米や野菜をふんだんに使ったお弁当は、竹の器等に盛りつけられ地域の方々のその土地に掛ける熱い想いや温かいおもてなしの心が感じられる非常に素晴らしいサミットであったと思います。甲斐前山都町長様をはじめ実行委員会、関係者の皆様に、あらためて心より御礼申し上げます。

本協議会は設立されてから18年が経過しましたが、ご存知のとおり国際化、少子高齢化、担い手不足などの影響で、日本農業の原点ともいえる棚田は今、かつてない危機的な状況になつてきています。サミットなどを通じて、棚田が将来にわたつて残すべき日本の宝であることを全国に訴え、活動し続けなければなりません。情報交換や交流を通して棚田を有する中山間地域に対する認識も深まり、各地域で棚田保全が一層推進されることを願つております。

今後も会員が連携して棚田保全、地域の活性化を図れるよう、さらなるご支援をお願いいたします。

最後になりましたが、長期に渡りご指導いただきております中島峰広先生はもとより、中山間地域の発展のためご尽力いただいております農林水産省はじめ県、関係機関の皆様に心より感謝申し上げますとともに、和歌山県有田川町で11月に開催される第19回全国棚田（千枚田）サミットのご盛会をご祈念いたしまして、退任の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

# 「茶草場」(静岡県)が世界農業遺産に認定!

去る5月29日に石川県七尾市で開催された国連食糧農業機関(FAO)の世界農業遺産国際会議で、新たなる「世界農業遺産」の認定地域が決定した。

日本で新規登録を目指していたのは3カ所。静岡県「茶草場」(掛川市など5市町)、熊本県の阿蘇地域(7市町村)の野焼きや放牧等の農法、大分県国東地域(6市町村)のシイタケ栽培。この3カ所すべてが今回、新たに「世界農業遺産」に認定されたのである。

日本で新規登録を目指していたのは3カ所。静岡県「茶草場」(掛川市など5市町)、熊本県の阿蘇地域(7市町村)の野焼きや放牧等の農法、大分県国東地域(6市町村)のシイタケ栽培。この3カ所すべてが今回、新たに「世界農業遺産」に認定されたのである。

本誌前号でも、「世界農業遺産」に認定されている石川県能登地域や新潟県佐渡島を取り上げ、また、申請中であった静岡県の「茶草場」も紹介した(63号 p.11参照)。今回の認定にあたり、前号に原稿を寄せてくださった静岡県経済産業部茶業農産課の岡あつしさんはこう語る。

「代々、おいしいお茶作りのために努力して受け継いできた農法が評価されたことは、生産者にとって大きな喜び。認定されたことがゴールでなく、これを今後の茶業に活かすことや、訪れる人の受け入れ、将来にわたっての保全の仕組みづくりなど、やるべきことは多く、むしろここからがスタート。お茶にかかる人だけではなく地域が一体となつてこれらの課題に取り組んでいくよう、行政も応援していきたい」

静岡県掛川地域は、お茶の一大産地もあり、かつ棚田も有する地域である。そんな地域の一つ、菊川市上倉沢せんがまちの棚田も「世界農業遺産」は、生物多様性を保つ伝統的な農業のシステムを評価するものだが、地域の文化や景観等の評価も加味されている。それだけに今回の認定は、地域全体の大きな活力ともなつてくれるだろう。

本誌前号でも、「世界農業遺産」に認定されている石川県能登地域や新潟県佐渡島を取り上げ、また、申請中であった静岡県の「茶草場」も紹介した(63号 p.11参照)。今回の認定にあたり、前号に原稿を寄せてくださった静岡県経済産業部茶業農産課の岡あつしさんはこう語る。

平成25年度全国棚田(千枚田)連絡協議会の事務局を務めることとなりました熊本県山都町です。1年間どうぞよろしくお願ひいたします。

昨年10月19日・20日に当町で開催いたしました「第18回全国棚田(千枚田)サミット」には、全国各地よりたくさんの方々にお越しいただきました。サミット開催にあたり、会員の皆さまはじめご来賓、一般参加者、関係機関の皆さんには格別なるご支援、ご協力を賜りましたこと、また地元の皆さんには並々ならぬ意気込みの中で盛会のうちに終えることができましたこと、紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。

さて、昨年の「第18回全国棚田(千枚田)サミット」は、「子どもたちへ残そう地域の宝」「地域が育み続ける棚田の文化と景観」をメインテーマに開催しました。

地域の宝とは、単に棚田や畠が宝物というだけではなく、祖先が残してくれた灌漑施設、これらが育んできた多様な生態系、そして地域の大いなる人々、この全てがおもに未来へと伝えよう「まもる心」に未来へと伝えよう「まもる心」をうけ継いで「豊かな恵み」をメインテーマに、和歌山県有田川町で開催されます。現在、町実行委員会が11月8日・9日の開催に向けて準備を進めています。

この秋には色づいたミカンの香り漂う有田川町で皆さまにお会いできることを楽しみにしております。

## 事務局ニュース

事務局、熊本県山都町からのお知らせコーナーです。

て、これを育み続けることが棚田の文化と景観を維持しているものであり、棚田を未来へ継承していくのは、中山間地で生活を営んでいる私たちの大きな使命ではないかと改めて感じています。

幸い、山都町では日本の棚田百選に選ばれている高棚田、峰棚田、た通潤用水と白糸台地の棚田が、地域住民の方々の一つ一つ積み重ねた日頃の努力により、地域の宝として残されています。その思いが棚田現地見学のきめ細やかなおもてなしに繋がったのではないかと思っています。



新しく会員になったみなさま  
<自治体会員> 高知県津野町

## 棚田の保全・中山間地域活性化のための全国組織 全国棚田(千枚田)連絡協議会

お申し込み・お問い合わせは協議会事務局

**熊本県山都町 農林振興課内**

〒861-3663 熊本県上益城郡山都町新小字886

TEL: 0967-721136

FAX: 0967-721066

協議会 HP: <http://www.yukidaruma.or.jp/tanada/>

## 編集後記

この号と並行して「ライステラス」の初の試みである「別冊」づくりを行いました。別冊「和歌山県の棚田・段々畑」(オールカラー16ページ)です。和歌山県農業農村整備課とのコラボレーションで、新たな情報を提供でき、また新しい可能性も開けました。「コラボレーション(collaboration)」とは「ともに働く、協力する」の意味。日本では芸術分野において共演や合作という意味合いで多く使われてきた言葉ですが、今、棚田地域でも、棚田地域における「若者」と「地元」のコラボレーション(=共同作業)が見られるようになりました。それが今回の特集です。お手伝いだけでなく、お客様でもない「コラボレーション」する関係が、新しい力となり棚田地域を支えはじめています。今回の特集「若者×地元」とともに、別冊「和歌山県の棚田・段々畑」もお楽しみいただければ幸いです。石井里津子



長岡造形大学の学生によるカカシ作品「フクロウ」。関連記事 p 5

「額縁を持つクマの4姉妹」

「田を守る女神」



千葉県鴨川市大山千枚田にて。環境大学生たちによるどろこんこバレー。関連記事 p 3



静岡県菊川市せんがまちの棚田にて。今年6月に実施した静岡大学、信州大学、山梨県立大学の3大学が集まった「棚田で田植え応援交流会in静岡」。関連記事 p 10